

## 9価ヒトパピローマウイルスワクチン（シルガード®9）の接種が可能です

2019年6月から当院では9価ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンである **Gardasil 9（輸入ワクチン）** の接種を行ってきましたが、2021年2月に**シルガード®9**（中身は Gardasil 9 と同じ製品）が**日本で承認**されたため、採用ワクチンはシルガード®9 に切り替えています。日本で承認されている他の HPV ワクチンに、2価 HPV ワクチン（サーバリックス®）と4価 HPV ワクチン（ガーダシル®）の2つがあります。4価 HPV ワクチンは、子宮頸がんの原因となる HPV の約**60-70%**をカバーしますが、9価 HPV ワクチンは**約90%**カバーすることができます。HPV ワクチンは、子宮頸部異形性・子宮頸がんだけでなく、尖圭コンジローマ、肛門がん、中咽頭がん、陰茎がんなどの予防効果があることが知られています。

### 1. 接種方法（初回接種年齢によって必要な接種回数が異なります）

9-14歳：2回接種（0、6-12ヶ月）

15歳以上：3回接種（0、2ヶ月、6ヶ月）

※ただし免疫不全がある場合は、9-14歳の場合でも3回接種となります

### 2. 接種のタイミング

- ・シルガード®9 は、9歳以上で接種が可能ですが、中学校1年生で接種することが一般的です
- ・日本の定期接種の対象年齢は、小学校6年～高校1年相当（12~16歳）の女性です
- ・これまでに接種歴のない 16-26歳 への catch-up 接種が推奨されています
- ・当院では、27-45歳への接種、男性への接種も可能です

### 3. ワクチン接種による副反応

- ・局所の疼痛（約90%）、腫脹（約40%）、発赤（約34%）、頭痛（約15%）、などがあります。重篤な副作用は少なく、安全なワクチンと考えられています。
- ・接種後の広い範囲に拡がる痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動、記憶障害や見当識障害などの高次脳機能障害など、多様な症状がこれまでに国内外から報告されていますが、HPV ワクチンとの因果関係は示されていません。
- ・2013年6月に、HPV ワクチン接種後に接種部位以外の体の広い範囲で持続する疼痛等が報告されたことから、積極的な接種勧奨が一時差し控えられました。その後、安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められました。これにより、2021年11月に積極的な接種勧奨の一時差し控えが終了し、積極的勧奨が再開しました。
- ・詳しい経緯は、厚生労働省ウェブサイトをご参照ください（[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html)）。

#### 4. 予約方法

- ・受診を希望される方から、直接電話で予約申し込みをしていただきます。
- ・予約専用電話：078-302-5110（月曜日から金曜日 午前9時から午後5時）

#### 5. その他

- ・費用は、ワクチン診察に関する初診料または再診料を込みで、初回 35,046 円、2-3 回目 32,221 円（自己負担）です。
- ・在庫状況はその都度更新していますが、世界的に需要が増加した場合、手に入りにくい状況となる可能性があります。そのため、ご予約の際に、数週間お時間をいただくことがあります。
- ・任意接種として接種する方で、万が一健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度ではなく、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく医薬品副作用被害救済制度の対象となります。強い副反応が生じた場合、当院感染症科外来でご相談いただければ、各専門診療科と協力して対応させていただきます。

#### 6. HPV ワクチンが定期接種として接種が可能な年齢の場合

- ・2023年4月から9価HPVワクチンが定期接種として公費（自己負担なし）で接種できるようになりました。そのため、基本的に、より多くのタイプのHPVをカバーできる9価HPVワクチンの接種をお勧めします。なお、2価HPVワクチン（サーバリックス®）と4価HPVワクチン（ガーダシル®）も引き続き定期接種ワクチンとして認められています（当院では、4価HPVワクチンを採用しているため、その接種は可能です）。
- ・積極的な勧奨の一時的な差し控え（2013年-2021年）によって定期接種の対象年齢（小学校6年から高校1年相当）の間に接種を逃した平成9年度生まれ～平成18年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日）の女性には、公費での接種の機会が提供されています（キャッチアップ接種）。令和4（2022）年4月～令和7（2025）年3月の3年間、9価・2価・4価いずれかのHPVワクチンを公費で接種できます。
- ・これまでに2価または4価HPVワクチンを1回または2回接種している場合、原則として同じ種類のワクチンを接種することが推奨されていますが、途中から9価HPVワクチンに変更して、残りの接種を完了させることもできます（これを交互接種と呼びます）。この場合も定期接種の対応となります。ご希望やご質問ある場合は、外来担当医にご相談ください。なお、2価または4価HPVワクチンで接種を開始し、定期接種として9価HPVワクチンで接種を完了させる場合は、9価HPVワクチンの接種方法にあわせ、1回目と2回目の間隔を1か月以上、2回目と3回目の間隔を3か月以上あけて接種します。